

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370104147		
法人名	株式会社ピアーズ		
事業所名	グループホーム シルバールピアーズⅡ		
所在地	岡山県岡山市北区門前389		
自己評価作成日	令和 3 年 7 月 15 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=3370104147-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=3370104147-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 3 年 8 月 12 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年もコロナ禍で外出が難しい中、密にならないように利用者の方が楽しめる行事を考え行いました。日常では、利用者の方と野菜を育て水やり、洗濯物干し、ごみ捨てに行く等、少しの時間でも外の空気を感じて頂けるように支援しています。また、歌がお好きな利用者の方が多く、皆で歌を歌う機会を増やして、一人ひとりの思いや要望を職員全体で共有している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スタッフ全員が新任管理者の性格を十二分に理解し、管理者を愛し慕わっている。管理者の思いを協力的に、且つ利用者へのケアを細かく丁寧にバックアップしている。利用者から知り得た情報をタイムリーに周知し、モットーとしている『待つ介護』を方針として、リアクションがベストなタイミングになるまで待つ事が出来ている。ケアマネも家族の気持ちで、ケアプランに活かし、職員が一丸となって家庭的ケアに努めている。『待つ介護』が一人一人の居室の空気として漂い、居室であってもスタッフは寄り添い、絆を深めている。「待つ介護」の穏やかなハーモニーが悠然と流れ、一人一人が笑顔の華となって、風とともに舞っていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示し、職員全体で共有し、統一したケアを実践している。年に一度、勉強会を開き、理念について再確認をしている。新入社員にも研修を行い指導している。	玄関・事務所・共有フロアー・相談室等にどこからでも目に入るように『基本理念』を掲示し、年1回の研修や委員会で何でも気安く話し合っている。社員が研修委員長となり、資料を基に実施。新入職者には、一か月以内に理念に関する研修を実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新聞を発行し回覧板でホームの様子を紹介している。交番に利用者が塗ったカレンダーを飾ってもらい励みになっている。	隔月『ほのぼの新聞』を発行し、町内会の回覧板に載せて頂いている。毎年、近所の生石神社の方が、境内で採れた夏みかんの差し入れや、敬老会の時期には、婦人会長さんからのお世話のもと、市からのお菓子の配布がある。利用者で作ったカレンダーを交番にお届けし、巡査さんと記念撮影も楽しい恒例の行事。	地域とご縁を深める時間帯を増やしては如何でしょうか？(掃除等地域の交流)
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族地域交流会や運営推進会議がコロナ禍で開催されていないが、認知症の支援方法等いつでも受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議をコロナ禍により書面にて行い、利用者・家族・地域住民・行政の方に活動報告と・サービスの取り組みを報告し、ご意見・要望を返送して頂いている。サービスの向上に努めている。	書面会議として隔月開催を継続している。普段言葉数の少ない方には、事前に電話でコメントを頂きやすい雰囲気を生み出せるように工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議でのご意見ご要望を家族、地域の方、地域包括支援センターの方に返送してもらい、まとめたものを事業者指導課に郵送し報告している。また、コロナ感染対策で疑問に思ったことは、その都度質問し、連携を図っている。	管理者が窓口。管理者は昨年4月からの新任だが、疑問に思った事は直ぐに、事業者指導課に電話で対応できる関係を早期に構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1回委員長を中心に職員の意見を聞きながら、具体的な身体拘束の工夫のポイントなどの冊子をまとめて職員全体に回覧している。	身体拘束はしていない。年間の研修計画に位置付けており、スタッフが委員長となって講義。住環境と人とのふれあい方・服薬からのアプローチを『待つ介護』を基軸にして、個々に合った拘束をしないケアを実践している。スピーチロックを含めた勉強会を続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員長を中心に会議は密となる為、一人ひとりの意見を聞きながら虐待事例の冊子を活用し職員全体に回覧している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月研修委員を中心に勉強会の書類を用意し、職員全員に回覧している。また、後見制度の書類はいつでも見る事が出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとり、詳しく説明することで不安や疑問な点にお応えしている。利用料金・起こりうるリスク、重度化・看取りや医療連携の実施など説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で家族の方の面会は出来ていない。利用者との日々の会話の中で、思いや要望等を引き出せるように努めている。家族の方にもこまめに連絡し、何でも言ってもらえるような関係作りを留意し、運営に反映できるようにしている。	利用者がホールで難しい顔をしていれば、腰をかがめて視線を合わせて「どうされましたか？」と言葉をかけ、一緒に食事や入浴の時に、何気なく意見を聴いている。ある入居者の伴侶は、離れて暮らしている想いの文をスタッフにだけ手紙で吐露する関係となり、伴侶に伝え、絆が深まっている。	利用者と家族の意見を聴こうとするのではなく、日ごろの話からこちらからきっかけを創るような話始めをして、会話のキャッチボールをしては如何でしょうか？
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議は密になる為、個別で意見を出し合いまとめて、ユニット職員全員で周知し、よりよい支援が出来るように努めている。	勤務の希望が満遍なく配慮されている。職員が疲れている表情をしている時には、すぐ言葉をかけて、その時の想いをしっかり聴こうとしている。また、新任の管理者は素直に「分からないから教えてほしい」と言う事を投げかけ、上下関係ない助け合いの風土となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から思いや悩み等をしっかりと聞き取り、ストレスをためない環境作りに取り組んでいる。何でも話し合える様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人社員には、1ヵ月間マンツーマン体制をとり、介護技術だけでなく、利用者との関わり方についても指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、管理者研修、ケアマネ研修のみ参加を行った。正社員にはオンラインで興味のある研修に申し込んでもらい、スキルアップにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況や健康状態を把握し、本人の思いを受け止め、安心して新しい生活に慣れて頂けるように支援する。また、職員との信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や思いを受け止め、何を求めているのかを考え理解して対応することで、より良い信頼関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からお話を聞き、思いを受け止め、状況を確認しながら、最善のサービスが提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援をする側、される側という意識をもたず、共に支え合える関係になれるような場面作りや声掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	緊急事態解除後も行政より面会禁止となっている。ご家族の方が心配されないように、月一回の手紙に写真をつけ、日々の様子をお伝えしている。また、状態の変化があれば早急に連絡し、相談し、対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前入居していた施設の職員が当施設に来た際、利用者の方に声をかけて下さっている。	他のユニットの職員も定期的に来訪時に利用者へ声をかけて、馴染みとなっている等、コロナ禍だからこそ、続けられる関係を深め、生活のメリハリを形成している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格や関係性について、職員で共有し、一人ひとりの個性が発揮できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られる場合、今までの生活が継続できるように情報提供を行っている。ご家族にその後の様子を手紙や電話でお尋ねしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で表情・態度や会話から本人の思いを引き出せるに努めている。意思疎通が困難な方には、ご家族から情報を得たり、気になる事があれば職員間で情報を共有している。	利用者から聞き取った事をタイムリーに周知しているので『待つ介護』の『待つ』事が出来、ここ！という時に本人の意向を汲み取れたリアクションが発揮できる。また、利用者の言葉は立ち止まって聞く事を旨としており、一人ひとり話しやすい環境を職員が作り出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活の中でコミュニケーションを取りながら聞き出していき、言葉に出しづらい方は、表情から汲み取るように努めている。ご家族の方からも昔の様子聞き、これまでの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを介護日誌に記録し、職員間で共有するとともに、生活、心理面で出来ない事より出来る事に注目し、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望や思いをしっかりと聞き、ユニット職員会議で話し合い、ご本人、ご家族の意向に沿った介護計画の作成に努めている。	入居時に2週間後に見直す暫定プランを作り、その後、概ね6か月を目途に活かせるプランにしている。担当者会議は密を避けて、医療職を含めて個別に意見を取りまとめ分割開催している。モニタリングは原則3か月毎に行い、利用者の健康状態に合わせて頻度を詰めるなどして調整している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・状態の変化は個々のケア記録に記入し、職員間の情報共有を行い、介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態や家族の意向に配慮しながら必要に応じて可能な限り出来る事は取り入れるようにしている。また通院や送迎が必要な場合は出来る限り柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園訪問、敬老会等の行事に積極的に参加していたが、コロナ禍の為地域ボランティアの方の訪問は中止している。交番に月1回利用者の方が塗ったカレンダーを届け、繋がりを保っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時ご希望の病院をお尋ねしている。事業所の協力医では24時間体制で対応が可能であり、適切な医療が受けられる。必要に応じて受診時、ご家族に同行し様子を伝えている。週1回訪問歯科での口腔ケアにも力を入れている	利用者は元のかかりつけ医を継続できる。要望の無い方は、協力医を紹介している。定期的に往診に来て頂いているので関係が深まっている。協力医には月2回、受診に連れて行っている。歯科は、月一回訪問がある。専門医や大病院へは、スタッフが受診を介助し、家族の同席を求めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化、気付いた事があればすぐに看護師に報告し、医師に連絡し、早急に適切な処置医療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護・看護添書にて日々の様子、体調の変化を報告し、入院中の様子を把握し、ご家族とも連携を取りながら速やかに退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に伴う意見の確認、同意を本人・家族・医師・看護師・介護職が話し合い安心して納得したケアが受けられるように随時、確認・相談しながら取り組んでいる。	看取りを行っている。研修委員長を自社で設けて、年1回社内で見取りの勉強会を行って何時でも対応ができるようにしている。看取りガイドブックを家族に閲覧して頂き、重度化や終末期の情報を共有出来る様に配慮している。コロナ自粛を境に外部研修の再開も意欲を感じた。看取りの重要性を家族の身になって介護にあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時には協力医に早急に連絡し指示を仰いでいる。緊急時のマニュアルを作成し救命法・AEDの勉強会を研修委員のもと行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中・夜間を想定した避難訓練を行っている。地震・水害を想定した訓練も行っており、非常食や必要備品も定期的に管理している。	災害マニュアルを用いて火災と地震と水害の訓練を昼夜想定で継続実施。緊急連絡網と避難経路を用意して、自然と行動できる体制を整えている。備蓄は、3日分を確保し、賞味期限も確認して献立に役立っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、その方のプライバシーが損なわれる事がないように、介助が必要な時も本人の気持ちになり言葉かけをするように心掛けている。	呼称は、原則、苗字に『さん付け』としているが、家族の希望に応じて本人に馴染みの呼び方をして親しみがある関係を築いている。ふと気の緩んだ言葉かけをした事が、周囲にはいつもよりも過大に思われる事があるので、普段から言葉の節々や聞く姿勢など気を引き締めて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方の思いや希望に添えるように声かけを行い、本人が自己決定しやすい言葉かけをしている。衣類も可能な方には、選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、本人の要望に沿えるように希望を尋ね支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔後、髪をとかし身だしなみの声かけを行っている。本人のこだわりを把握し服装もその人らしいスタイルが保てるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下問題のある方には水分にトロミをつけたり、お粥・刻み食・ミキサー食でその方に合った形態で対応している。希望食の日には時期に合わせた料理を提供し、喜ばれている。	ムース食や特別に配慮が必要な方にはケータリングしている。利用者を書いて頂くメニューは、食事の楽しみにつながり好評。敷地内のミニ菜園の収穫物もサラダに彩を添えている。月に一度の希望食以外に、献立の要望も叶えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回体重測定を行い変化がないか気をつけている。一日の摂取量を記入し、水分摂取量が少ない方には脱水にならないようにスポーツドリンク等を提供し飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声掛け誘導にて口腔ケアをして頂き、出来ない方にはブラッシングやスポンジブラシを使用し介助で行い、口腔内に食べ物が残らないようにしている。月1度の歯科衛生士による勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて一人ひとりのサイン、排泄間隔の把握し声掛けを行っている。日中は布パンツ・紙パンツを使用し、夜間はオシメを使用したりと、その方に合った工夫をしている。	個々に合ったケアを続けている事で、紙パンツから布パンツに改善した方もいる。必要な方のみ、夜間のポータブルトイレを設置している。少しの励ましでトイレに行ける方には、夜間もトイレにお連れする。見守りが必要な方の配慮として引き戸の内側にレースカーテンを施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録・排便板をチェックし、朝食前に冷たい飲み物を飲んで頂いたり、体操に参加・散歩へ出かけたりし、身体を動かせる機会を作っている。しっかり水分補給をしていただくようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴や体調により入浴困難な方には清拭や足浴を行っている。一人ずつ入浴して頂き、入浴時には皮膚の状態に変わりがないか注意している。	体調に合わせてシャワー浴や足浴や清拭を組み合わせて提供し、入浴剤も活用して楽しんで頂いている。嫌がる方には、トイレのついでに「足だけ温めて帰ろう」「着替えだけしよう」「一緒に入ろう。あ！だけど狭いなあ」等と気持ちの和らぐ、その人に受け入れられやすい言葉をかけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中にはなるべく身体を動かし、生活リズムをつけるようにしている。体調の変化に気を付けながら個別に休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方・効能・副作用の説明をファイルし、確認出来るようにしている。服薬時には名前・日付を声に出し二人でチェックし誤薬に気をつけ、内服後は飲み込みを確認している。飲み込みが難しい方にはトロミを使用し服用して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や会話の中からその人に合ったお手伝いをして頂き、負担がかからないように配慮している。好きなパズルや計算問題をして頂き気分転換を図っている。また字を書く事が得意な方に献立を書いてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍での外出が難しい為、庭への散歩、洗濯物をスタッフと一緒に干しに行ったり、野菜の水やり、車イス散歩に出たりし、少しでも外の風に当たり気分転換できるようにしている。	広々とした敷地内に馴染みの場を作り、日向ぼっこしたり、軒先で洗濯物を干したり取り込んだりして、ちょっとした普段から外出気分を促している。身近な場所でも外出した気分を味わって頂ける様に支援し、フラストレーションが募らないように配慮し、職員も結構息抜きとなっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の方よりお小遣いを預かり、事務所で管理している。コロナ禍で外出は難しいので、希望を聞き職員が代わりに買い物に行くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の書ける方は、毎月書いてもらい、行事の写真と一緒に送付している。年賀状は職員がお手伝いさせて頂き全員が出せるようにしている。また、電話でご家族とお話しされるのを生きがいにされている方もおられ、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには利用者の方の絵・行事の写真を飾っている。季節に合わせた塗り絵や貼り絵・折り紙を職員と一緒に作って飾り、明るい環境作りに努めている。また、コロナ禍の為、換気には注意している。	広い構内から全室平屋の建物を臨み、季節の草木が出迎え、季節感を醸し出している。高い天井の天窓から射し込む日差しも柔らかく採光も程よい。毎月、利用者と一緒に作成した作品を模様替えて、飾りから季節感を出している。コロナ対策と合わせて掃除や片付けなど、入居者は、スタッフと日頃から家事を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子の配置に考慮して、落ち着いて気の合う人たちが楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具や、思い出の写真・作品(塗り絵)を飾り、居心地の良い暖かい雰囲気作りに努めている。	居室の飾り付けは、殆どを壁に統一させ、少しでも空間にゆとりを持たせ安全に配慮している。写真撮影を趣味されていた方の部屋にも、お気に入りの写真が懐かしさとともにセンス良く飾られていた。認知症の進行された方には、ロボキヤットで愛玩されていて、IoTの活用もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の状況に合わせ、分かりやすく安全に生活ができるように、職員同士話し合いながら工夫をしたり、物の配置に注意している。		